



<https://kouryo-high-school.com> /✕-ℳ kouryo@chibagakuen.ac.jp

心安らぐひと時を堪能

A photograph showing three female students in the foreground, seated on a light-colored floor. They are wearing dark blue school uniforms with white collars and large blue bows. They are holding small white plates with a single yellow snack on each and are in the process of eating. The student on the right is wearing glasses. In the background, other students in similar uniforms are also seated and eating. The setting appears to be an indoor event or assembly.

生徒会役員選挙立会演説会が11月17日（月）に行われ、当日投票が行われた。信任投票になった今回の選挙は立候補した9人が信任され当選した。12月4日（水）に行われた任命式では、校長先生より任命状が手渡され、「演説会で掲げた公約をしっかりと実行するように」との激励があった。任期は来年の11月末までとなる。

會計監査 1年 石田 光 (根城中学校出身)	會計監査 2年 野田 愁斗 (豊崎中学校出身)	會計 1年 苦米地 柚杏 (北稜中学校出身)	會計 2年 王原 鋭強 (下長中学校出身)	書記 1年 田端 ゆずほ (長者中学校出身)	書記 2年 中居 怜音 (江陽中学校出身)	副会長 1年 丹野 周杜 (第二中学校出身)	副会長 2年 坂本 瀬帆 (湊中学校出身)	会長 2年 村田 翼 (湊中学校出身)
---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	------------------------------



齒科講話



12月8日（月）、学校の柄本先生をお招きし、1年生対象の歯科講話が行われた。生徒たちはメモを取りながら、熱心にお話を聞いた。講話では虫歯にならないためには、まず予防が大切であることを学んだ。中でも気をつけたのが歯周病。歯周病は風邪やインフルエンザと同じ感染症の一つであり、さまざまな病気を引き起こす原因となる。脳卒中や高血圧、糖尿病など百以上の病気と関わりがあると言われている。発症してから気付くことが多い歯

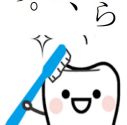
年 金 講 話

周病だか、日頃から口内環境を清潔に保つことが予防に繋がるとした。また、定期健診、担当医とは別の医師に相談するセカンドオピニオンも歯の健康を保つ要素の一つと述べた。歯の健康は身体の健康に直結する、生徒たちは、日頃から予防を心掛けた生活をするこの重要性を改めて実感したようだった。

【生徒感想】

佐々木 礼登（江陽中学校出身）

今日の歯科講話では、歯の健康についてたくさん知ることができました。特に驚いたのは、歯周病の一番の原因がタバコだということです。私自身タバコを吸うつもりはありませんが、一つ新しいことを学ぶことができました。私は、一度も虫歯になったことがないので、これから歯と体の健康を維持できるように、日々の生活から意識していきたいです。



八幡 優菜（大館中学校出身）

今日の歯科講話を聞いて、歯の病気は、糖尿病や脳卒中などのいろいろな病気に繋がることが分かりました。それぞれの病気には、病気になる原因があるので、その原因を作らないように予防することが大事だと思います。

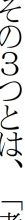


12月10日（水）、3年生を対象に年金セミナールが行われた。八戸年金事務所より佐藤桂一さんはじめ3名をお招きし「年金とは何か」を日本昔話の「ももたろう」に例えて分かりやすく説明を受けた。「ももたろうにはなせ、犬、キジ、猿が登場するのか」という問いか



繩文俳句入賞

3つの『かえる』が大切だ」と訴えた。その3つとは、「考える」「振り返る」「切り替える」である。就職、進学でどこに行っても切り替えが大事である。高校生活が残りの少ない3年生へ向けて、奮い立たせてくれるような言葉をいただいた。



球技大会

蟬の殻 是川土偶と 同じ色

第10回は川縄文の里俳句大会において釜谷聖来さん（2年・大館中学校出身）が第5位となる戸戸縄文保存協会長賞を受賞した。応募総数は、一般の部一五六句（86名）、小学生の部三五句（13校）、中・高生の部四三六句（13校）だった。

12月19日(金)

YSアリーナで球技大会を行った。女子はバレーボール、男子はバスケットボールで優勝を争った。生徒たちは、級友や保護者らの声援を受け、2学期最後の行事を存分に楽しんだ。

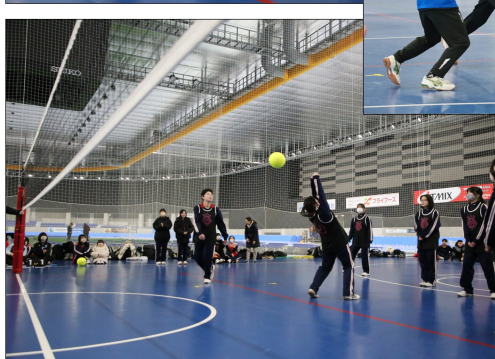
【女子】

【男子】

3位	2位	1位
1年1組	3年1組	3年2組

1位
3年2組

3位
2年1組



修学旅行

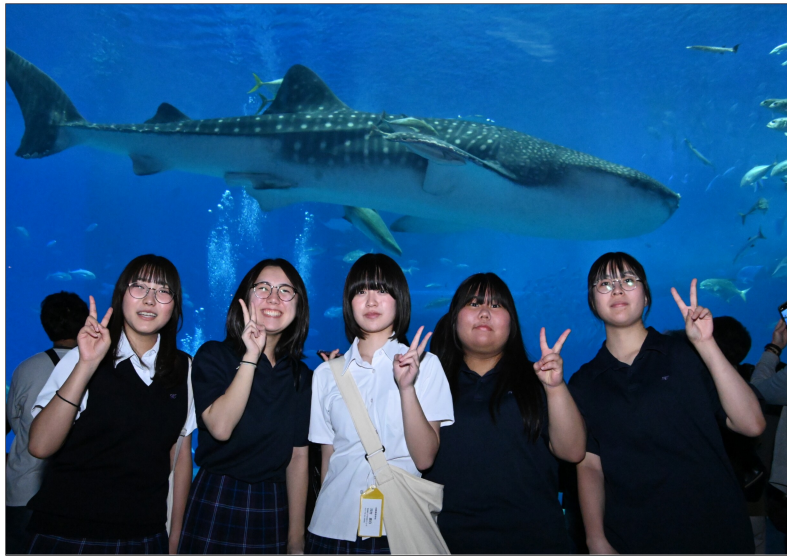
12月6日(土)～10日(水)、2年生が修学旅行で沖縄を訪れた。全日程天候に恵まれ、今年開業したジャングリアを楽しんだり、戦争や平和について考えた。感染症で途中離脱する者もなく、地震で心配された新幹線にも影響なく参加者全員無事帰八した。

【12月6日(土) 八戸→沖縄移動】

【12月7日(日) 沖縄海洋博公園→ウルミ大橋→古宇利オ・サンタワ→国際通り】

中村 倅萌(東中学校出身)

美ら海水族館は、沖縄の海をテーマにしていて実際の海の環境に近い形で多くの生物が展示されていました。見学して最も印象に残ったのは「黒潮の海」と呼ばれる巨大水槽です。この水槽では、ジンベエザメやマンタが泳いでおり、大きさと迫力に圧倒されました。ジンベエザメは世界最大の魚でありながらゆっくりと泳ぐ姿がとても落ち着いていて見るだけで安心感がありました。広い海の中で生きる生物の力強さと美しさを同時に感じることができました。また、水槽に使われているガラスがとても厚く、人が一人入れるくらいの厚さでした。大きな生き物と大量の水を支えるためには、強度が必要なのだと感じました。水槽そのものにも高い技術が使われていることを知り、水族館の工夫に感動しました。珊瑚礁の海を再現した展示では色とりどりの珊瑚を見ることもできました。珊瑚はとてもデリケートで水温の上昇や海洋汚染の影響を受けやすいことが分かりました。環境問題は



いろいろなところで取り上げられています。今回生き物を間近に見たことで現在進行している差し迫った問題であると、一層考えるようになった。美ら海水族館の見学で海の生き物の魅力だけではなく、それを守っていくための努力の大切さを学びました。これからは、もっと環境に配慮した行動ができるよう日々の生活を意識していきたいです。

高山 勝吏(湊中学校出身)

オ・サンタワ

では、屋上にあるデッキや屋内展望フロアから景色を見ることができました。エメラルドグリーンに輝く古宇利ブルーの海が絶景でした。バスの中で見ても圧倒される景色でした。また、沖縄の植物が茂る庭園の中をカートを移動しました。寒い八戸とは別世界のような空間を楽しむことができました。また、シェラルミュージアムでは、世界から集められた1万点以上の貝を展示する博物館も見学しました。地元ならではの土産や景色を堪能することができました。



鈴木 柊介(大井町立湘光中学校出身)



国際通りにはたくさんの方がいて、飲み物や食べ物も目移りするほどの種類がありました。その中でも「ステーキハウス88」が印象的でした。沖縄で有名なだけあって柔らかくて箸が止まりませんでした。店の

なレトロな雰囲気がありテンションが上がりました。また、「A&W」にも行きました。アメリカンな店内で提供されているハンバーガーは大きくてインパクトがありました。ちんすこうや紅芋タルトなどのお土産を買い、異国情緒あふれる国際通りを満喫しました。

【12月8日(月) ひめゆりの塔→平和祈念公園→おきなわワールド→旧海軍司令部跡→守礼門→首里城】

坂本 響亮(北稜中学校出身)

ひめゆりの塔を訪れて、戦争が人の心や人生をどれほど深く傷つけたかを強く考えさせられました。まだ学生で家族や友だちと普通



の日常を毎日過ごしていたはずのひめゆり学徒隊。その学生が、戦争によって突然過酷な状況に置かれていたと思うと、とても胸が苦しくなりました。また、資料やガイドの説明からは、当時の不安や恐怖だけでなく、仲間を思いやり必死に生きようという気持ちが伝わってきました。今の自分が当たり前のように学校に行き、家族と過ごすことができることは、決して当然ではないことに気づかされました。同じ悲しみを繰り返さないことが大切だと思います。ひめゆりの塔を訪れた経験は、平和と命の尊さについて改めて考えるきっかけになりました。私たち一人ひとりが平和のためにできることをやっていく必要があると思いました。

いわまくら かたくもあらん やすらかに

ねむれとぞ祈る まなびの友は
という歌も心に残っています。この歌は、ひめゆり学徒隊の引率の先生、仲宗根政善先生が詠んだ歌で「岩を枕に横たわるのは辛かっただろうが、安らかに眠ってください」と学友たちが祈っています」という意味です。先生は、教え子たちが硬くゴツゴツした岩場で亡くなっていたことを思うと、さぞやるせない気持ちになっただろうと想像ができます。戦争の悲劇、平和への願いが込められた沖縄の地を訪れることができて良かったです。

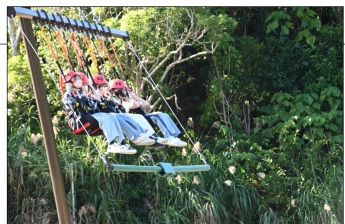
佐々木 愛莉(根城中学校出身)

平和祈念公園に行き、感じたことは自分が想像していた以上に死者の数が多いということでした。公園内には、霊域ゾーンと言い、沖縄戦で亡くなった方たちの遺骨が収骨されている場所があります。私たちは、青森県のみちのくの塔というところで線香をあげ参拝しました。入口には青森県の特産物であるりんごの石像のようなものが置かれていたのが印象に残っています。みちのくの塔の後ろには、広く大きくともきれいな海が広がっていました。その日はとても天気が良かったので、海も澄んだ青と水色が混ざり合いとてもきれいでした。次に平和の礎というところへ行きました。そこは、刻銘碑という、戦争で亡くなった方々の名前が県ごとに分かれて記されています。礎は平和の広場を中心にして放射状に円弧の形で広がり配置されたところ

です。亡くなった方々の名前が細かく記されていた。戦地が沖縄だったことから、青森から戦争に出兵した方、亡くなった方はそれほど多くないだろうと思っていました。しかし、たくさんの方々の名前を目にし、惨劇の凄さを感じました。日本人以外にも外国人の名前が英語で記されていたので、世界中の多くの人が戦争に巻き込まれたのだと知ることができました。戦争を経験した人たちの辛さ、悲惨さを少しでも感じることでできたのではないかと思っています。生きてくても生きたくない時代に生まれた人たちの想いを背負い、今幸せに生きていることのありがたさをかみしめ今後の人生を歩んでいきたいと思いました。

上井 啓人(第二中学校出身)

火災による焼失から現在復元・復興中の首里城に行ってみました。完成まであと約1年だそうです。守礼門・首里城に実際に行ってみて気づいたことは、一段一段の階段の造りが急だということでした。また、城の周りを囲むように道が造られ階段の高さ同様、敵の侵入に備えていたのではないかと思いました。頂上からは、城の様子や街並みを見ることができました。日本本寺や神社とは違って塀が高く、複数の門があり、王国時代の独自の文化を感じることができました。一つの門をくぐってから、それまでバスで見てきた景色は様変わりし、本当に異国の地に来たような感じを受けました。城以外の街並みも日本とは異なっており、今の日本にはないはつきりと王政や貧富の差が見られました。私的には、中国の文化の影響が強く感じられる場所だと思いました。



【12月9日(火) 「みちの駅かでな」で展望台から嘉手納基地や基地概要・展示室見学→ジャングリア】

松田 和花(種市町立種市中学校出身)

道の駅かでなの展望台の目の前に米軍基地がありました。運が良ければ基地から飛行機が飛び立つのを見ることができるとのことでしたが、私たちは見ることはできませんでした。道の駅には、普段からいつ飛行機が飛ぶのかという問い合わせが多いそうです。展望台には騒音を測る機械がありました。飛行機が飛んでいない時の騒音は63デシベルくらい

ですが、過去には124・5デシベルが検知され、これは飛行機のエンジン近くよりも大きい音で騒音問題にもなっています。この町は面積の82パーセントが基地だと知り、平和学習や観光で来ている私たちとは違い、ここで暮らす人々の気持ちを考えると少し複雑でした。

木田 明秀(白山台中学校出身)



ジャングリアは、自然の中にアトラクションがあり眺めの良い景色が広がっていました。しかし、アトラクションチケットが抽選で、当たらないと乗れませんでした。私たちの班は「スカイフェニックス」に当たり、全員で楽しいひと時を過ごしました。

頼住 隆汰(厚木市立小鮎中学校出身)

ジャングリアのスラップの人たちの対応がとても好印象でした。多くのアトラクションを試したわけでは無いですが、スリルを味わえるものもあったので楽しかったです。しかし、口コミ通し、食べ物、3、4千円かかってしまいました。人気のアトラクションは抽選で、私たちが乗れたかったものにはほとんど乗れなかったです。中には体験しながら課金が必要なものもありました。そこで私たちが立てた作戦は、ジャングリアのアプリを活用し、各アトラクションの待ち時間が短いものから乗っていくというものです。これなら乗れる数が増えると思います。もし、来年もジャングリアに行くのであれば、この作戦を使ってほしいです。一日を通して、ジャングリアの良いところ、残念なところを体感できました。でも、なんだかんだいって、いい思い出になったことは間違いありません。多分、友だちと一緒に内容はどうであれ何でも楽しいと思います。いろいろな意味で充実した一日でした。



【12月10日(水) 沖縄→八戸】